

忠臣蔵浮世絵 国際シンポジウム

令和4年2月11日（金・祝）

午後1時30分～（約3時間）

赤穂市文化会館ハーモニーホール小ホール
（※オンライン参加のみ）

参加料 無料

参加登録 URL :

bit.ly/akosym

参加登録についてのお問い合わせはこちら

【立命館大学

アート・リサーチセンター事務局】

Email : r-darc@st.ritsume.ac.jp



参加登録 URL の
QR コード



データベース入口の
QR コード

●新型コロナウイルス感染拡大状況等により、内容の変更及び実施を見送る場合があります。

●主催
忠臣蔵浮世絵国際シンポジウム
実行委員会

●共催
赤穂市、赤穂市教育委員会、
（公財）赤穂市文化とみどり財
団、赤穂義士会、立命館大学ア
ート・リサーチセンター

テーマ：世界に広がる「忠臣蔵」

第1部：個別発表

赤間 亮氏（立命館大学教授）
各段揃物・忠臣蔵錦絵再考

石橋健一郎氏（元国立劇場）
「仮名手本忠臣蔵」の浮世絵を読む～芸能史の視点から～

サトコ・シマザキ氏（UCLA准教授）＊
「世界」からキャラクターへ——文化期以降の忠臣蔵役者絵——

アンネグレート・ベルクマン氏（東京大学特任准教授）
浮世絵に映った明治時代の「忠臣蔵」

*リモート参加

第2部：基調講演

アンドリュー・ガーストル氏（ロンドン大学名誉教授）＊
「仮名手本忠臣蔵」の忠義・英雄・悲劇は普遍的であろうか？

第3部：パネルディスカッション

アンドリュー・ガーストル氏＊/石橋健一郎氏/アンネグレート・ベルクマン氏/サトコ・シマザキ氏＊
コーディネーター 赤間 亮氏

忠臣蔵浮世絵国際シンポジウム実行委員会

事務局：赤穂市教育委員会 市史編さん室



忠臣蔵浮世絵の変遷や特徴を紹介しながら、赤穂市「忠臣蔵」浮世絵データベースによる作品情報公開の意義と活用の方向性について論じ、国内外の多くの方々に忠臣蔵浮世絵の魅力をアピールし、データベースのより一層の利用促進を図るため、市制施行70周年記念事業として忠臣蔵浮世絵国際シンポジウムを開催します。

忠臣蔵浮世絵デジタル展覧会
あなたのパソコンやスマホが展覧会場に！

好評開催中

展覧会構築・協力：立命館大学アート・リサーチセンター

第1回

討入り図の諸相



第2回

義士の頭領★大星由良之助



赤穂市ホームページ (<http://www.city.ako.lg.jp>) 内の赤穂市「忠臣蔵」浮世絵データベース入口からアクセス！

■基調講演：アンドリュース・ガーストル氏（ロンドン大学名誉教授）

「仮名手本忠臣蔵」の忠義・英雄・悲劇は普遍的であろうか？

■要旨

赤穂浪士の事件は、早くも江戸中期にオランダ人のティチング（日本滞在 1779～1784 年）があらましをヨーロッパ人に伝えました。その後、明治から現在にいたるまで、歴史研究や文芸作品において武士道における忠義や英雄といった理想が論じられるときに、義士の事件と「忠臣蔵」が取り上げられてきました。近年ではトーマス・ハーパー（English）氏の歴史小説の大作、47: the True Story of the Vendetta of the 47 Rōnin of Akō (2019) が特筆されます。今回、私の話では、浄瑠璃と歌舞伎の「仮名手本忠臣蔵」の主要な登場人物の描写を辿りながら、芝居において「忠義」を尽くすこと、それによって起こる悲劇的な結果が、どのように提示されているかについて考察したいと思います。

